

コード No. 11090

**Anti-Human  
APP (N) (10D1) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

- はじめに** : アミロイド前駆体タンパク(APP) はアルツハイマー病における老人斑の主要構成成分であるアミロイドβ (Aβ) の前駆体タンパクであり、スプライシングの違いから主に3種のアイズフォーム (APP695, APP751, APP770) が存在します。このタンパクの代謝経路の主なものはαセクレターゼ、γセクレターゼによる切断を受ける経路 (Aβ 非産生経路) とβセクレターゼとγセクレターゼによる切断を受ける経路 (Aβ 産生経路) です。前者の代謝経路からは切り出された APP の N 末部分が分泌型 APPα (sAPPα) として産生され、後者の経路からは分泌型 APPβ (sAPPβ) と Aβ が産生されます。Aβ ドメイン両端、つまりβセクレターゼ、γセクレターゼ切断部位近傍の APP 遺伝子変異が家族性アルツハイマー病で確認されており、APP からの Aβ 切り出しの過程がアルツハイマー病発症に重要であることが強く示唆されております。APP 自体の生理的機能についてはまだ不明な点が多いのですが、神経系と他の臓器とでは、その機能が異なると考えられています。
- 免疫抗原** : Human APP の N 端部分のリコンビナント
- 起源** : マウス×マウス ハイブリドーマ  
(X63-Ag8.653×BDF-1 マウス脾臓細胞)
- クローン名** : 10D1                      サブクラス : IgG<sub>1</sub>
- 精製方法** : プロテイン A 精製
- 包装形態** : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性** : 2~8 °C 保存                      5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存                      2 年間安定
- 使用目的及び使用方法** : ウェスタン・ブロッティング 2 µg/mL にて使用可能  
免疫沈降法 3 µg/test にて使用可能
- 特異性** : マウスと非交差  
APP695, APP751, APP770 のすべてのアイズフォーム、および可溶性 APP (sAPPα, sAPPβ)を検出可能
- 参考文献** : 1. Citron M, Oltersdorf T, Haass C, McConlogue L, Hung AY, Seubert P, Vigo-Pelfrey C, Lieberburg I, Selkoe DJ. Mutation of the beta-amyloid precursor protein in amilial Alzheimer's disease increases beta-protein production. Nature 360 (6405): 672-674 (1992)  
2. Goate A, Chartier-Harlin MC, Mullan M, et al. Segregation of a missense mutation in the amyloid precursor protein gene with familial Alzheimer's disease. Nature 349: 704-706 (1991)  
3. Selkoe DJ. Normal and abnormal biology of the beta-amyloid precursor protein. Annu Rev Neurosci. 1994;17:489-517.

